

△ペリアクチン錠 [内]

- 【重要度】 【一般製剤名】シプロヘプタジン 塩酸塩水和物 (U) Cyproheptadine Hydrochloride Hydrate 【分類】抗アレルギー剤
- 【単位】△4mg/錠, ▼1%散, ▼0.04%シロップ
- 【常用量】4~12mg/日
- 【用法】1日1~3回
- 【透析患者への投与方法】少量から開始し, 常用量の50~100% (12)
- 【保存期CKD患者への投与方法】少量から開始し, GFR 10mL/min : 常用量の50~100% (12)
- 【特徴】抗セロトニン作用と抗ヒスタミン作用を有し, 皮膚疾患, アレルギー性鼻炎, 感冒等上気道炎に伴うくしゃみ・鼻汁・咳嗽などに適用される.
- 【主な副作用・毒性】眠気, 倦怠感, 口渇, 頻尿, 錯乱, 幻覚, 痙攣, 無顆粒球症, 肝障害, めまい, 消化器症状, 鼻出血など
- 【安全性に関する情報】
- 【F】資料なし (1)
- 【tmax】9hr (1) 【Cmax】5mg 経口投与時 36~50ng/mL (1)
- 【代謝】尿中回収物より主にグルクロン酸抱合され, その他硫酸抱合も関与した経路により代謝される (1) 尿中の代謝物はグルクロン酸抱合体, 硫酸抱合体 (1)
- 【排泄】尿中未変化体排泄率 2%未満 (12) 5~6% [po, 144hr まで] (1) 2%未満 (12) 尿中にグルクロン酸抱合体として 58~65%, 硫酸抱合体として 9~11%排泄 [po, 144hr まで] (1) 尿中回収率 70% (1)
- 【t1/2】1~4hr (12) 【腎不全患者のt1/2】データなし (12)
- 【蛋白結合率】データなし (12)
- 【Vd】データなし (12) おそらく 100L/man 程度 (5)
- 【MW】350.88
- 【透析性】組織移行性が高いと推測され, 透析性は低いと思われる (5) 資料なし (1)
- 【O/W 係数】資料なし (1)
- 【主な臨床報告】セロトニン 5-HT1A/2A 受容体のアンタゴニストであり, セロトニン症候群の治療に有用 (Park SH, et al: J Pharm Pract 2014 PMID: 24153222) セロトニン症候群の治療に有用 (Ables AZ, et al: Am Fam Physician 2010 PMID: 20433130)
- 【備考】抗コリン性の副作用に注意 (1)
- 【更新日】20240710

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。